

保育現場の超具体的安全戦略!

第5号



「溺れ」を防ぎましょう

この情報シートは、未就学児施設で働く皆さんに環境・製品面の子どもの安全をお伝えするものですが、大切なテーマについては、保護者の皆さんにもぜひお伝えしたい!そこで、今号はこれからの季節の大きな危険、「溺れ」を取り上げます。

所 真里子

日本子ども学会常任理事、ISOガイド50(子どもの安全の指針)JIS原案作成委員会委員、保育の安全研究・教育センター設立メンバー。家政学修士(日本女子大学)。子どもの安全の専門家として研修講師、調査研究等を行っている。



水遊びはおとなと一緒に

水深が浅いビニールプールや池で溺れることも

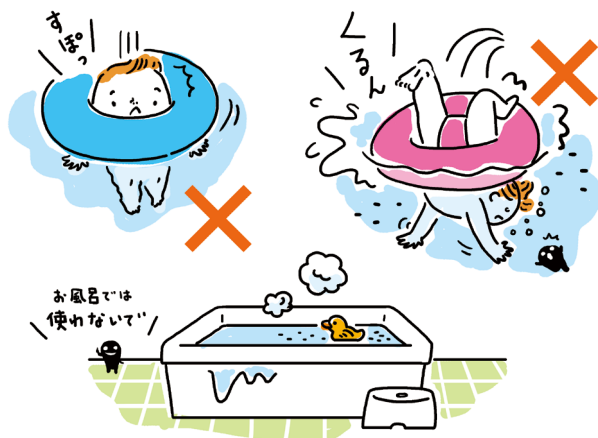
数センチでも、口と鼻を覆うだけの水があれば「溺れ」は起きます。プールのなかの水をすくおうとして、あるいはおもちゃを取ろうとして頭から水に落ちることは、ひんぱんに起きます。立ち上がろうとして転んでしまうこともあります。ほんの数分だからとその場を離れたり、スマホに目を向けたりすることは非常に危険です。また、遊び終わった水は残さず、すぐに捨てましょう。



バスタブで浮き輪を使わない

プール用の浮き輪は死亡事故多発

首にかけて使うもの、足を入れて使うものなど、プールで使う乳幼児用の浮き輪があります。「便利だから」と自宅のお風呂で使い、首がはずれて沈んだり首が絞まったり、逆にひっくり返ったりして溺れて亡くなったお子さんは何人もいます。使わないでください。



川や湖、海で遊ぶ時はライフジャケットを着用

浮き輪では不十分

「安全を着る」ライフジャケットを

「浮き輪があれば大丈夫」「足を水につけるだけ。泳がないから大丈夫」と思わないでください。浮き輪は、大きな波や急な風で流されたりひっくり返ったりすることがあります。また、水の中は滑りやすく、流れに足を取られることも。ライフジャケットを着用していれば溺れるリスクは下がります。ボートやヨットに乗る時も忘れずに。



ライフジャケットを選ぶポイント

- サイズが合っているか
大きすぎると、ライフジャケットが鼻と口を覆ってしまったり脱げたりすること。また、ベルトの締めつけが不十分だと、うまく浮かばなかったり脱げたりすることもあります。着用方法も確認しましょう。
- 品質が確認された商品か
浮力が十分でないライフジャケットもあります。桜マーク(国土交通省型式承認品)など品質が確認された商品。
- レンタルする時の注意
子どもサイズは扱っているか、予約は必要かなど、出かける前に問い合わせを。サイズが合わないものを着用しても命を守ることはできません。



参考文献:子ども安全メール from 消費者庁、497号「首掛け式乳幼児用浮き輪は気をつけて使用しましょう!」、510号「家庭用プールでの事故に注意しましょう!」
東京くらしWEB「子供の水辺の遊びではライフジャケットを着用させましょう」(東京都、2019年3月26日)